

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立北波多小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・「学力の向上」では、アクションプランや校内研を活用した授業づくりの見直しや、授業の中で「書く活動」の位置づけが定着したこともあり、児童の学力も向上しつつある。今後は、小中連携での取組の研究やタブレット活用により更なる向上を図りたい。</p> <p>・コロナ禍のため、予定していた活動は十分にできなかったが、感染対策を取りながらできる限り行事や活動を行ってきた。全ての項目で「概ね達成できた」（B評価）以上の結果となった。職員で共通理解のもと自己肯定感を高める活動や工夫した教育活動に取り組んだ成果とも言える。今後も効果的な教育活動が図れるように、共通理解・共通実践に努めていきたい。</p> <p>・次年度もコロナ禍の中で教育活動が予想されるが、本校の宝である「学校ボランティア」等の活用も推進しながら、教科横断的な教育活動ができるように努めていきたい。</p>
---------------	---

2 学校教育目標	<p>自律・協働・創造 ～子どもたちの笑顔と活気に満ちた学校づくり～</p> <p>自律…自ら考え、誠実に判断・決定し、行動する力 協働…互いの価値観を理解・尊重し、対話を通し、ともに目的へ向かう力 創造…課題に粘り強く取り組み、新たな価値を生み出す力</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①確かな学力 ②豊かな心 ③健やかな体</p> <p>④安全・安心な学校づくり ⑤地域連携の強化 ⑥特別支援教育の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間でマイプランを共有する。 国語、算数を中心に、授業の中に書く活動を位置づける。(自分の考えを表す時間やまとめの時間、ふりかえりの時間など工夫を取り入れる) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動は80%の教師が取り入れることができた。まとめやふりかえり、自分の考えを書くことで、思考・判断・表現が育っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分に厳しい先生と、そうでない先生もいるだろう。80%以上という成果指標だが、人によって50%だったり99%だったりする。職員の意識疎通が大事なところだ。
	○児童の「問い」を活かす授業の取組	○児童の「問い」を活かす授業を推進できたと肯定的な回答をした教師80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的対話的な学びの創造に向け、「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し授業研究に取り組む。 一人1回、算数の研究授業に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全教師が「授業づくりのステップ1・2・3」をもとに授業を行うことができた。児童にとっては、「対話することで学びを深めた」への肯定的な回答は78%に留まったが、個別最適な学びの実践の工夫によるもので、「問い」は確実に児童の主体性のつながり、80%の教師が推進できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 十分にできたとはいえないのかもしれないが、対話の中でいろいろな考えを言うことができるようになった。 理解するのに時間がかかる児童への手立ての工夫等、今後も丁寧な支援をお願いしたい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○集団の中で積極的に活動したり協力したりできた児童85%以上 ○進んであいさつをすることができたと肯定的な回答をした児童の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 「自己肯定感を育てる」というめあてをもって、各種行事に取り組む。 縦割り班での遊びや掃除を通して、異学年交流に取り組む。 人権教室「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実施する。 委員会やボランティアの児童と共に、朝のあいさつ運動を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権集会を通して、人権についての理解を深め、「自分大好き、友だち大好き」の合言葉で仲間づくりへの意識を高めることができた。 挨拶の意味を全校朝会で話し、朝の挨拶運動の目的を理解し、意欲的に活動することができた。元気づけあいさつができたも、肯定的な回答をした児童の割合も90%以上だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 朝のあいさつは、ほとんどの子がよくしてくれている。 地域でも、よくあいさつしてくれている。この頃、よくなってきている。 地区の行事への、子どもたちの参加も良い。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「困ったことがあれば、先生や保護者に相談できる」と肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uアンケートや毎月の「心のアンケート」の結果を週1回の連絡会で情報共有を行うと、共に学級経営に生かす。 いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回の拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「学校が楽しい」と感じる児童が90%達成した。「学校が楽しくない」と回答する児童には聞き取りを行い、関係児童や職員と情報を共有できた。 第2回いじめアンケートの結果から、30件のいじめを認知し報告した。日頃の様子から、いじめを認知・認知するいじめへの感度を高めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」と感じている子が多くて、良いことだ。 いじめについては、今後も未然防止・早期発見・早期解決に努めてほしい。
	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自らの夢や目標の実現に向けて、諦めず努力をし続けることができる」と肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関する諸活動について、キャリアパスポートを系統的に位置づけ、自身の姿や成長を自己評価させる。 郷土について学ぶ体験活動をカリキュラムに位置付ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリアの形成を見通したり、振り返りしながら自身の姿や成長を自己評価できるよう工夫されたものになるよう掛けた。また、それを活用して教師が対話的に関わることが大切であると実感できた。 活動を通して、学校、家庭及び地域における学びを自己の成長に活かそうとする態度や強度を養う心を育むことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートは、学校できちんと管理してもらっていてありがたい。 活用の仕方については、今後も工夫を続けてほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各学期において、食に関する指導を全クラスで行い、児童の食に対する意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「健康に食事が大切である」と考えている児童は98%になっている。 給食委員会を中心に残菜調べなどを行ってきて、食の大切さを意識している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「健康に食事が大切である」と考えている児童は98%で、食の大切さをよく理解できている。
	○「望ましい生活習慣の育成」	○朝の検温、マスク着用を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して、感染症対策をしっかりと行っていく。 換気、手洗い・消毒、密の回避など感染対策を徹底しながら、教育活動にあたる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 検温チェックシートを配布して、家庭での検温を促している。マスク着用は休み時間以外にはあるが、室内で密集した場所では、全員が着用している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 検温チェックシートについて、保護者さんによく協力いただいている。 コロナ禍で、3年ぐらい学校行事等に参加できないことが続いたが、来年度からは参加できるようにできればと期待している。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外勤務時間の削減と業務効率化の推進	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> 業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。 校務分掌や教材研究に係るデータの共有化を図る。 年取得日数を昨年度より増やし、定時退勤日(毎週金曜日)の遵守を進め、メリハリのある業務推進とワークライフバランスの意識の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間の上限については、ほぼ全員の教職員が平均45時間未満を遵守することができた。しかし、長期休業中を除くと長時間勤務もあり、業務の効率化を含めた校務分掌の見直しや改善も必要と思われる。 校務サーバーへのデータ保存について呼びかけてきた。活用しやすいように校務サーバーの整理も必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間の上限が、月に45時間とは多い。保育園では、人手を増やして時間外勤務が増えないように調整している。 休憩時間が取れないという実態もあるようで、なんとかならないのかと思う。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)					
○小中連携の充実と地域連携の強化	○小中連携による学力向上と、地域住民(学校支援ボランティア)・保護者と協働した教育課程の実施	○小中連携・地域連携による取組への肯定的な回答をした保護者・教職員の割合80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同推進委員会と研修会の定期的な実施 小中相互の授業参観 学校活動に合った学校支援ボランティアとの連携を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートによる保護者・教職員の肯定的な回答は80%を超えていた。小中連携については、次年度は更に計画的に取組を進めていきたい。ここ数年はコロナ禍の中で中止になったり、感染対策をとりながらの実施であった。今後の取組のあり方については、検討が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小の連携もできている。今後も小学校と幼保の連携を行ってきたい。
○特別支援教育の充実	○児童の特性を考慮した環境整備(人的・物的)	○チェックリスト(「特別支援教育のスタンダード」P313)の平均値3.5以上の教職員の割合80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援に関する研修会の実施 ケース会議の開催、情報共有 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートより特別な支援を必要とする児童の把握に努めるが80%達成できているが、児童の行動分析や具体的な手立てを取ることで70パーセントだったので、引き続き具体的な手立てを講ずる研修や実践を積んでいく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保育園にも、人をつけないといけない子がいる。薬を飲んで登園してくれる子もいる。特別な支援を必要とする児童の理解や対応について、今後もよろしくお願いいたします。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・「学力の向上」では、児童の「問い」を活かした単元づくりに取り組んだ。問いを追究する手段や方法を児童に選択させる機会を作ることで、個別最適な学びや協働的な学びの実現につながった。県学調の結果から、思考力・判断力・表現力の伸びも確認できた。今後は、記憶する「知識・技能」の定着や小中連携での取組の研究の充実を図り、更なる学力の向上を目指したい。</p> <p>・本年度もコロナ禍であったが、感染対策を取りながらできる限り行事や活動を行ってきた。3年ぶりに実施できた活動(運動会での志気浮立など)や新たな取組もあり、「自律」「協働」「創造」の学校教育目標の達成に向け、効果的な教育活動を図ることができた。今後も、地域や保護者との連携をとりながら、本校の宝である「学校ボランティア」等の活用も推進し、実践に努めていきたい。</p> <p>・様々な特性をもった児童がみられ、対応に苦慮する場面もあった。特別支援教育に関する知識と実践力を高め、組織的に支援にあたっていかねばならない。</p>
----------------	--